

## 第2学年2組 道徳科学習指導案

### 1 主題名

「周囲の思いやりを感じ、感謝する心を育もう」

資料名「初心」（日本文教出版）B-6 思いやり、感謝

### 2 指導観

- 人間は、互いに助け合い、協力し合って生きている。その関係を根底で支えているのは、互いの感謝の心である。感謝の心は、潤いのある人間関係を築く上で欠かすことのできない大切なものである。

人がおのずと感謝の念を抱くのは、他者の思いやりに触れ、それを有り難いと感じ、素直に受け止めたときである。そして、自分が現在あるのは、多くの人々によって支えられてきたからであることを自覚するようになる。

本教材は、柔道の指導者である主人公・井上康生さんの柔道に対する取り組みや困難を乗り越えた体験などをまとめたものである。父親の影響で柔道を始めた井上康生さんは、瞬く間にその名が知られるようになった。世界一も確実とされていたがある大会での初戦敗退を機に、大きな挫折を味わう。しかし、母親の愛情や周囲のサポート、粘り強い練習によって苦しみを乗り越え、周囲の人々に感謝の念を抱きながら成長していく実話である。人の成長を支える周囲の存在に気づき、思いやりと感謝の心を育むことの素晴らしさに気付くことができる教材である。

- 本学級の生徒は、前時の授業の中で「初心」を読み、井上康生さんの姿を通して、目標を設定し、その達成を目指す中で、挫折や困難に立ち向かい、努力し続けることが自身の成長につながるということを学んでいる。しかし、井上康生さんが成長していく過程で多くの人の支えがあったことについては意識できていない生徒もいる。何かを行う過程には、周囲の支えがあるということを意識できていない生徒がいるのは、日常生活においても同じである。

事前にとったアンケートの中の「クラスみんなは協力し合っていると思うか」という項目では、4ポイント中、平均2.81ポイント、「自分はクラスみんなに協力していると思うか」という項目では、4ポイント中、平均2.97ポイント、応援しているチームや人、グループがある生徒は74%という結果であった。何かを応援したり、学校生活において協力したり、支え合ったりする場面は多いが、協力してもらったり、支えてもらっているという意識は低いのではないかとアンケートの結果や普段の生活の中で感じる。

- 本時の指導にあたっては、前時に目標に向かって努力すること、挫折を乗り越える強い意志を持つことで人は成長していくということに焦点を当て読んだ資料を今度は、周囲の思いやりや支えに焦点を当て読み返すことで周囲の思いやりや支えに気づき、感謝の心を感じさせたい。

さらに、自分が相手に対して何をもって応答することができるかを考えさせ、結果として思いやりと感謝の心を持つことが自己と他者の心の絆をより強くするのだということに気づかせたい。

・つかむ段階では、井上康生さんが自分ひとりではなく、周りの支えを受けながら成長してきたのだということに気づかせる。

・さぐる、深める段階では、「初心」を改めて読み、井上康生さんが誰にどのようにして支えられていたのかを想像することで、井上康生さんのことを尊重しながら様々なかかわり方で井上康生さんを支えた人々がいたこと、思いやりとはどのようなことなのかを考えさせる。

・見つめ直す段階では、井上康生さんは自分を支えてくれた人にどのように接していたかを考えさせることで、感謝の心を持つことで、互いに助け合い、協力し合って生きることができるということに気づかせるとともに、自分の他者への接し方を振り返ることで今後の実践につなげる。

3 本時 令和元年11月15日(金) 第5校時 2年2組教室において

(1) 本時の指導観

生徒は、「初心」を読み、井上康生さんが挫折から強い意志で立ち上がり世界一になる姿をウェビングマップで整理しながら、困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けることが成長につながることを学んでいるがその周りで井上康生選手を支えた人々について意識できているものは少ない。同心円チャートを活用して、井上康生さんの周りの人々に焦点を当てることで、思いやりとはどのようなことかを考えさせるとともに、思いやりに対して井上康生さんがどのように応答していたかを想像させることで、自分は周りの思いやりに対してどのように応答することができるかを考えさせ、日常生活での実践につなげたい。

(2) 本時のねらい

周囲の思いやりに感謝し、自分が他者の思いやりに対して何をもって応答することができるかを考えることができる。

(3) 準備

- ・ワークシート
- ・インタビュー記事

(4) 展開 (ゴシック…思考ツールの活用場面)

段階	学習活動・学習内容	具体的な支援	評価の観点 (方法)
つ か む / さ ぐ る / 深 め る / 見 つ め 直 す	1 井上康生さんは、一人だけで世界一になれたのか考える。	○前時の内容を振り返るために、前時のワークシートを配布しておく。	○周囲の思いやりに感謝し、自分が他者の思いやりに対して何をもって応答することができるかを考えることができる。 (ワークシート・発表)
	めあて なぜ人は人を支えるのか考えよう。		
	2 「初心」を読み、井上康生さんが世界一になるまでに周囲の人はどのように関わっていたのかを考える。	○井上康生さんが世界一になるまでに多くの支えがあったことに気づかせるために、同心円チャートを活用する。	
	3 どのような気持ちで周りの人たちは井上康生さんを支えていたのかを考える。 (1) 個人で考える。 (2) 小グループで意見を交流する。 (3) クラスで意見を出し合い、議論する。	○支える人の気持ちを具体的に考えるために、どの人の気持ちについて考えるかを小グループごとに指定する。	
	4 井上康生さんは支えてくれる周りに対してどのように接していたか、周りは井上康生さんからどのような影響を受けていたかを考える。	○井上康生さんが周りに対してどのように接していたかを考えるために、井上康生さんのインタビュー記事を紹介する。	
5 本時の振り返りを行う。 (振り返りの観点) ・ 今日初めて知ったことやわかったこと ・ 誰の考えが心に残っているか ・ 授業を通して考えたことを自分の生活と重ねて	○自己内対話を促し、考えを明確にするために、振り返りの観点を示し、ワークシートに記入させる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自己内対話で目指す姿</span> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分も多くの人に支えられているから、感謝の気持ちを持ちたい。</li> <li>・ 人に支えられるには、まずは自分が頑張ることが大切だと思う。</li> <li>・ いろんな人に支えられている分、自分も人を支えられるようになりたい。</li> </ul> </div>		

## 「周囲の思いやりを感じ、感謝する心を育もう」展開構想

### 【教師の主発問】

○前時の道徳を振り返る。

#### 【補助発問1】

井上康生さんは一人だけで世界一になれたのだろうか。

### 【発問の意図】

井上康生さんの周りに、井上康生さんを支える多くのひとがいたことに気づかせる。

### 【予想される生徒の反応】

- 違う。周りの支えがあった。
- 家族がいた。
- 練習相手がいた。
- 応援してくれる人がいた。

○本時のめあてを確認する。

めあて なぜ人は人を支えるのか考えよう。

○資料を読む。

#### 【補助発問2】

周囲の人はどのように井上康生さんを支えていたのだろうか。

具体的にどのように井上康生さんが支えられていたかを考えることで、思いやりにも様々なかたちがあることに気づかせる。

- 父は厳しく指導した。
- 練習相手は様々な技をかせさせてあげた。
- 母は初心を思い出させた。
- ファンは応援で元気を与えた。

#### 【発問1】(中心発問)

井上康生さんが挫折を経験したとき、周囲の人はどんな気持ちで井上康生さんを支えていたのだろうか。

周囲の人の気持ちを考えさせることで、思いやりの心は能動的に人と接するとき生まれるもので、相手に対する深い理解と共感が必要であるということに気づかせる。

- これだけ頑張っているのだから世界一になってほしい。
- 厳しいことをいうのはつらいが康生のためだ。
- 康生選手の才能を伸ばしたい。
- 今まで頑張ってきたのだから諦めないでほしい。

#### 【発問2】

井上康生さんは周りに対してどのような影響をあたえていたのだろうか。

思いやりをもって支えることで、感謝されるだけではなく、その人の頑張りや成長に触れることができ、絆を強くするとともに、喜びを感じることができることを感じさせる。

- 康生選手が頑張っているのだから自分も頑張らなくては。
- 自分も康生選手のようにになりたい。
- 自分の夢をかなえてくれてうれしい。

○本時の振り返りを行う。

#### 【発問3】

本時を振り返って何を考えたか。

授業を通して考えた内容とともに、自分自身を振り返り、これからの生活に生かすことができるようにする。

- 支えてくれている人に感謝をしたい。
- 人に支えてもらえるように努力したい。
- 自分も思いやりをもって人を支えられるような人になりたい。